

問 題

別紙の関連情報を踏まえ、次のAからDまでの問について、解答用紙の対応するAからDまでの各欄に、それぞれ 350 字以上 500 字以内で解答しなさい。

A 「弁護士の仕事も将来、コンピュータに取って代わられる」とする立場から、その理由を論じなさい。

B 「弁護士の仕事がコンピュータに取って代わられることはない」とする立場から、その理由を論じなさい。

C 「コンピュータが仕事を奪う」時代にあっても、コンピュータに奪われない仕事にはどのような特徴があるか、法律関係職以外の、いわゆるホワイトカラーの職種を具体的に挙げつつ、自由に論じなさい。

D 「コンピュータが仕事を奪う」時代において、どのような法曹を目指し、そのためにどのような能力やスキルを磨くべきか、自由に論じなさい。

【解答作成上の留意点】

本問は、解答者の思想や信条を問おうとするものではない。また、法知識を求めるものでもない。

別紙

著作権法により公開していません

(新井紀子『コンピュータが仕事を奪う』(日本経済新聞出版社・2010年)4頁より引用)

著作権法により公開していません

(Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne, The Future of Employment: How Susceptible Are Jobs To Computerisation?, September 17, 2013 [http://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/The_Future_of_Employment.pdf] の41頁より和訳)

- ③ 米国の所属弁護士数が 50 名以上の法律事務所のパートナー弁護士**を対象にしたアンケート調査 (2015 Law Firms in Transition: An Altman Well Flash Survey) によると、今後 5~10 年の間に、パラリーガルの仕事が人工知能に代替されると回答した割合が 47%、着任 1 年目の新任弁護士の仕事が代替されると回答した割合が 35% に達しており、パートナー弁護士の仕事も代替されると回答した割合も 13.5% に上っている。これらの数字は、4 年前の同じ調査の結果に比べて、大きく上昇している。

(注) * 「パラリーガル」とは、弁護士の監督の下で定型的・限定的な法律業務を行うことによって弁護士の業務を補助する者をいう。

** 「パートナー弁護士」とは、法律事務所において出資者としての地位を有し、事務所全体の経営や管理運営に参画する弁護士、ないしはそれと同等の地位にある弁護士をいう。